4 富三と国語

富三は、ことばを大切にした人でした。富三に接した人はだれでも、そういう印象を、強く与えられています。富三には少年時代に、東京府立一中の入学試験を受験し、東北なまりの方言で話したために、口頭試問で落とされてしまった苦い経験があります。後になって、富三が言葉を大事にし、正しい日本語につよい関心と愛情を持ち続けたのは、この少年時代の体験によるものと考えられます。

もし、言葉や文字がなかったら、文化や文明はつくられないし、人と人との心をかよわせることもできません。富三は、いそがしい仕事のかたわら国語審議会の委員となり、日本語の改善に力を尽くしました。そして正しい日本語の使い方、書き表し方について意見を発表しまし